夫∂八坂八浜有、又佛坂ト云

峠有、此日峠数拾壱越申候

同泊り、幸田村利三郎方ニ

テ芋壱升斗呉ル、中貪家程也

阿波ニ而新わしん弐足はく

土洲ニ而壱足也、両様共善根也

廿六日朝出立、昼前大降ニ而難渋

昼後降ヤミ上気ニ而宜敷御座候

峠五ツ越申候

三拾七番　仁井田五社　不動尊

此所大師堂十八丁へだて有

大師堂ニ而納経出ル、寺ハ士族ニ相成申候

富川と云町家也、道法九里斗也

同泊り、近所野村駒蔵伹庄屋指宿也

二十七日朝出立、上天気也、道法十里半斗

峠七八ツ斗越申候

同泊り、四万十川麓竹嶋村ニて役元へ

参り候処けんしき高き主人ニて一刀差テ

出ル、印鑑間ニ合不申由被申誠ニ心痛

致候得共

御大師様御蔭也結構成善根宿

被下難有事ニ候由廣吉ト申家ニ而

宿貰候、此家之本家ニ宿被下候処蚕

之指支ニ付別家ノ宿さして呉ル

夕飯呉ル

右廣吉家之本家弥次右衛門也惣庄屋

井上何某也弥次右衛門ニ而朝飯ト味噌少々呉ル

廿八日朝出立、曇り候得共不降誠ニ結横也

廿七日夜大変之蚊ニテ迚も寝入事不叶

ニ付廿八日昼寝致ニ付道法七り斗也

峠七八ツ越申候、極難渋之道也

四万十川幅七八十斗也、朝越ル

同泊り富津浦芳右衛門ニ而泊ル

庄屋亀谷殿指宿也、能人ニ而嬉

廿九日朝出立、雨大降ニ而難渋仕候

丗八ばん　足摺山　千手観音様

此寺廃寺同様、然共七不思儀

有第一ゆるき石迚五百貫斗之

岩之上へちさき石弐ものせ有夫を

をとし候石也其外色々御

座候得共巨細●記候

夫∂元之久保津浦へ戻り降ヤミ候間

又参り歩行いふり浦迄出て道五り

庄や指宿浜平ニ泊り、中貧家也

極山之中ニ而誠ニ難渋也

晦日朝出立、大降ニ而困り入申候

併昼後晴嬉しく存じ山田村ニ而

宿頼候処庄や山奥ニて分り兼

困り申候、折悪敷庄や留主ニ而

日暮し夫∂指宿迄十丁斗有

誠ニ難渋仕候我家之御恩を

能々感シ申候、道法七り半余

同泊り、山田村義多平ニ而頼

是ハとふでも下役之様子也

六月朔日朝出出立、上天気ニ而誠ニ

難有存候、士佐国都合十三泊り金一分三朱入用

三拾九ばん　寺山院　薬師尊

此寺廃寺俗人納経呉ル

須久毛村ニ而昼飯よはれ申候

其次村ニ而赤飯かしは餅等よはれ

夫∂イヨ佐々権現様へ参り

御一新ニ付正木村御下向被遊

ニ付此村之寺ニ而御納経貰

今日祭りニ而氏子一統寺へ

集会酒呑ほふす也、偏路

不残酒待施也此村ニ而色々

善根ニ預り夕飯村長ニ而

赤飯よはれ申候

併権五郎ト分レ甚タ

心配ニ付八ツ半時∂待居

夫∂泊り待居申候

六月朔日朔日泊り、伊ヨ

正木村庄蔵貧家也、中

庄屋指宿也

二日朝出立、曇り、夫∂大降ニ而難義

四ツ時∂ヤミ申候

イヨ四十番　観自在寺　薬師如来

一此寺ニいさり三七日籠り候処腰立申候

其人また籠り居候夫∂上下二ツ峠

難所也此日道法〆八里半斗也

同泊り神畑寺村弥右衛門方ニ頼入、貧家也

三日朝出立、天気、峠弐ツ越申候

宇和嶋城下見物仕候

四十壱ばん　龍光寺　十一面大士

四十弐ばん　佛木寺　大日如来

道法メ九り半

同泊り即村元名庄助、上中家

改名庄作

四日朝出立、上天気ニ候得共七ツ時

夕立致難渋、峠三ツ越